

第8回

気づきを築く ユニットケア 全国実践者セミナー

in 神戸

2009/3/14^土-15^日

会場：神戸学院大学 有瀬キャンパス
(兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬 518)

「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2002年の岡山県笠岡市を皮切りに、これまで全国7か所で開催され、数多くの実践現場から、日々の取り組みが報告されてきました。

ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みの内容は施設によって実にさまざまです。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至った取り組みがある。一方で、真新しいユニット型のハードが整っていながら、ケアの質が追いつかず、職員もお年よりも疲れてしまった例もあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフがケアのあり方やスタッフの育成、経営の方向などの実践をまとめ、伝え合い、交わり合い、より良いものにしていく場として開催しています。このセミナーでの発表を機に、お年よりの表情が変わった、職員が変わった、ケアが変わったなど、数多くの報告が寄せられています。

第8回となります今回のセミナーも、全国の実践報告を通して、報告者と参加者がともに学び、考え合う場とすることを目的に開催します。

主催：気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会
共催：神戸学院大学／特養・老健・医療施設ユニットケア研究会



実践発表テーマ

第1部門

私たちがはじめたユニットケア・グループケア(初級編)

ユニットケアやグループケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みのなかで悩んだこと、上手くいかなかった体験など、ユニットケア導入時の苦労や展開方法などについての実践報告です。既存施設も、新型施設も、ともに自分たちの出発点を報告してみませんか？

第3部門

その人らしい“食”とは何かを考える

ユニットケアでは、その人らしい暮らしに合わせた「食事」のあり方も重要になります。ユニットケアの実践から見えてきた、その人らしい暮らしを支える食のあり方(場づくり、食事づくり、買い物、栄養マネジメントなど)について実践報告を募集します。

第5部門

ユニットケアにおける記録の方法と施設内外との情報共有のすすめ方

ユニットケアの理念をすすめるうえで、ケアプランやケア記録はとても重要となります。その人らしい暮らしを支援するためのケアプランやケア記録の工夫や記録のとり方などの実践を募集するとともに、その記録を活用し利用者家族と職員が情報共有しながら築き上げる信頼関係づくりの実践報告も募集します。

第7部門

地域での暮らしを支えるために、施設にできること(地域特養・逆デイサービス・地域サテライトケア・小規模多機能ケア・地域共生ケアの取り組み)

ユニットケアは施設の中だけで完結するものではありません。施設内のユニットケアをより良いものにするために、「地域での暮らし」を知ることは、必要不可欠です。そのために、逆デイサービスや地域サテライトケア、小規模多機能ケア、地域共生ケアなど、多くの取り組みが行われています。施設から地域へ一歩踏み出した実践報告を募集します。また、逆デイサービスや地域サテライトケアなどを受け入れる地域の側の実践報告も募集しています。

第9部門

ユニットケアの基盤!職員育成と組織づくり

ユニットケアでは、職員一人ひとりの力量が求められ、その役割も大きく変わってきます。「ユニットケアに求められる職員像とその育成方法や新人教育の取り組み」、「日々のスーパーバイズの実践」、「ユニットケアのための組織づくり」、「現場の声を上手に活かす組織のあり方」など、職員の気づきを大切にしている教育や研修、また組織のあり方についての実践報告を募集します。

第11部門

住民とともにすすめる施設運営の取り組み(地域の応援団づくりの実践)

利用者一人ひとりの望む暮らしを実現する。言葉では簡単でも、その実現は簡単ではありません。施設の利用者のことを、地域の人も施設スタッフと一緒に考えてもらえる関係を築くことが、利用者の暮らしを豊かにするためには欠かせません。この分科会では、そんな地域の応援団との関係づくりの企画や実践について募集します。

- ◆定員:800人(※定員になり次第、締め切らせていただきます)
- ◆参加費(1人):一般参加費 15,000円
- ◆ユニットケア研究会会員・実践発表者 13,000円
 - ※施設会員は3人まで、個人会員は1人まで適応。
 - ※実践発表者は、1発表2人まで適応。
- ◆交流会費:2,000円
- ◆参加申込締切:2009年2月20日(金)

第2部門

3大介護からユニットケア(個別ケア)を考える

ユニットケアに取り組むことで、より一人ひとりを重視したケア、すなわち個別ケアが求められるようになります。「ユニットケアを2年、3年と続けていくなかで、利用者の暮らしはどのように変わったのか?」「個別的な関わりが増えていくなかで、3大介護と呼ばれる食事・排泄・入浴のあり方はどのように変わったのか?」など、ユニットケアに取り組むなかで変化した個別ケアに関する実践報告を募集します。

第4部門

一人ひとりの暮らし方から考える住環境づくり

ユニットケアでは、利用者一人ひとりの暮らしに合わせたケアはもちろんのこと、その暮らしの場としての住環境・しつらえのあり方も重要となります。ユニットケアの実践から生まれた、既存施設の改修や改築の工夫、新型施設の設計などについての実践報告を募集します。

第6部門

ユニットケアでの看取りから考えたこと、見えたこと(ターミナルケア)

ユニットケアでは、日々の暮らしだけではなく、人生の最期を病院ではなく、暮らしの場(自宅や施設)で支えることもあります。「施設での看取り方」、「個別ケアを進めるなかで見えてきた看取りのあり方」、「最期を迎えるその前後のスタッフと家族の関係」など、最期の支え方や家族との協力、医療機関との連携についての実践報告を募集します。

第8部門

ユニットケア施設の運営管理と管理者の役割(理事長・管理者編)

ユニットケアの成否には、組織のありようが大きく影響します。上意下達のピラミッド構造ではなく、より利用者に近い職員が、自ら判断することで、迅速かつ柔軟な対応が実現できるようになります。この部門では、ユニットケアに取り組むにあたって実施した、組織構造改革について、実践報告を募集します。管理者・施設長・現場責任者向けの部門です!

第10部門

ケアの質を高めるための多職種の連携と協働(専門性の活かし方)

職員一人ひとりが気づきを得ても、それが他の職員と共有されなければユニット全体、施設全体を変える力にはなりません。また、ときには施設を越えた連携と協力が、現場の実践を支え、ユニットケアを発展させる力へとつながっていきます。ユニットや施設にいる多くの専門職同士が、悩みや課題を考えあったり、いくつかの施設がともに研修を行ったりするなどして、利用者の暮らしを、より豊かにする実践報告を募集します。

第12部門

地域での暮らしを支えるために、施設にできること(地域特養・逆デイサービス・地域サテライトケア・小規模多機能ケア・地域共生ケアの取り組み)

ユニットケアは施設の中だけで完結するものではありません。施設内のユニットケアをより良いものにするために、「地域での暮らし」を知ることは、必要不可欠です。そのために、逆デイサービスや地域サテライトケア、小規模多機能ケア、地域共生ケアなど、多くの取り組みが行われています。施設から地域へ一歩踏み出した実践報告を募集します。また、逆デイサービスや地域サテライトケアなどを受け入れる地域の側の実践報告も募集しています。

第14部門

現場実践支援講座

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~14:30

1日目プログラム 3/14(土)

11:50~12:00	開会(各教室にて)	ポスター展示
12:00~14:05	実践報告リレー①(5発表)	3月14日(土)11:30~17:55が展示時間となります。なお、16:40~17:30は質疑応答の時間となります。
14:05~14:20	休憩	
14:20~16:25	実践報告リレー②(5発表)	
16:25~16:40	休憩	
16:40~17:55	実践報告リレー③(3発表)	18:30~20:00 交流会

2日目プログラム 3/15(日)

A会場 (定員400人)

アンコール報告	10:00~12:00	●実践報告① 岩崎あいの郷(愛知県)「おいしく食べる!」ということに、こだわり続けた理由(特養)岩崎あいの郷 ユニットリーダー 伊藤 由紀子
		●実践報告② 祥水園(奈良県) 介護に学び 介護に生かし 共存する日々(特養)祥水園 介護職 竹村 恵美
		●実践報告③ たじま荘(兵庫県) 利用者の希望に応じた外出支援の実践について(特養)たじま荘 ユニットリーダー 田中 浩司
		★インタビュアー: 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授 西垣 千春

12:00~13:00 昼食・休憩

現場実践支援講座

13:00~14:30

B会場 (定員300人)

現場実践支援講座	10:00~12:00	●報告者 上土幌すずらん荘(北海道) スーパーバイザー 石川 京子
		★インタビュアー 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 代表 武田 和典

C会場 (定員100人)

介護保険の枠を越えて応えよう!	10:00~12:00	事例報告リレー
		自宅や地域で暮らし続けることを支援する「地域発の実践!」
		●実践報告者 こまちゃん宅福便(長野県駒ヶ根市) 駒ヶ根市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 梶田 ひろ美
		つどい場さくらちゃん(兵庫県西宮市) 代表 丸尾 多重子
		NPO法人かなで(兵庫県宝塚市) デイサービスセンター奏 施設長 福住 美寿
		★司会進行 ひょうごボランティアプラザ 主任 荻田 藍子

ディスカッション 「制度サービス+自主事業+地域支え合い」で、自宅や地域で暮らし続けることの、支援のあり方を考える

	13:00~14:30	●パネラー NPO法人にぎやか(富山県富山市) 理事長 阪井 由佳子
		三原さん家(福岡県久留米市) 社会福祉法人拓く 常務理事 馬場 篤子
		★コーディネーター 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 藤井 博志

◆申し込みに関するお問い合わせ

JTB東北法人営業仙台支店ECデスク
(ご連絡いただくのは東京の事務所となっております)
 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14ダイハツ・ニッセイ池袋ビル6F
 TEL:03-5949-1351 FAX:03-5396-8145
 E-Mail:sendai-ec@jbn.jtb.co.jp
 営業時間:土日祝日除く平日9:30~17:30

◆内容に関するお問い合わせ先

気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会
 事務局/特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 担当:國分・湯橋
 〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平5-3-18-207(CLC内)
 TEL:022-719-9249 FAX:022-719-9251
 E-Mail:unit@clc-japan.com
 URL:http://www.clc-japan.com

◆参加にあたっての留意事項

1日目の実践報告リレーは、各教室にて自由にお聞きいただくこととなります。つきましては、参加者が多い教室では立ち見となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。参加者の皆様には、申込締切後、教室別の実践報告リレー一覧をお送りいたします。一覧を参考に、各教室を移動してお聞きいただくこととなりますので、ご承知おきください。
 なお、2日目の各会場につきましては、事前にお申し込みいただきますので、参加申込書に第1希望から第3希望までご記入ください。



ハート(ひと)とハード(もの)で 福祉を拓く 社会リハビリテーション

総合リハビリテーション学部

社会リハビリテーション学科

社会福祉と福祉用具とユニバーサルデザインを学ぼう！

生活環境で
支える

福祉用具で
支える

病気を抱えている人
を支える

NPOとして
支える

まちづくりで
支える



将来
ビジョン



地域での
生活を支える

障害のある人を
支える

家族や子どもを
支える

国際的に支える

貧困を支える

制度や法律で
支える



ハート (ひと) を学ぶ・・・

誰もが安心して自分らしく生きることを願います。その願いを支えるため、生活上の問題がある人にどのように接点をもち、どのように必要とするサービスにつないでいくか、さらにはサービスをどのように運営していくか(知識と技術)をひとと深く関わりあう演習や講義、現場での実習を通して学ぶことができます。



ハード (もの) を学ぶ・・・

障害や高齢化によって自分でできることが少なくなります。しかし福祉用具やユニバーサルデザインの道具を使うことで、できなかったことができるようになります。ここでは福祉用具に触れ、それを用いて住宅やまちを移動し、実践中心に学ぶことができます。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部では国家試験受験資格を取得できます。
社会リハビリテーション学科：社会福祉士、精神保健福祉士
医療リハビリテーション学科：理学療法士、作業療法士

平成21年4月
総合リハビリテーション学研究科(大学院修士課程)